

最近の韓国・中国・台湾経済情勢について

【今週のチェック・ワード】

[ASEANについて]

東南アジア10か国から成るASEAN（東南アジア諸国連合）は、1967年の「バンコク宣言」によって設立されました。

よって、今年で50年、半世紀を経た訳であります。

原加盟国はタイ、インドネシア、シンガポール、フィリピン、マレーシアの5か国であり、1984年にブルネイが加盟しました。

私の認識では、ASEANは、そもそもは、「中国本土の軍事面も含めた南下に対抗する組織」も目指して設立された国際組織でありました。

その後、ラオス、カンボジア、ベトナム、ミャンマーが加盟国として順次参加し、現在は10か国で構成され、2015年に共同体となったASEANは、過去10年間に高い経済成長を見せており、成長率の高い人口は既に6億人を超え、域内GDPも、また既に2兆5,000億米ドルを超えており、今後、世界の「開かれた成長センター」となる潜在力が高いと、世界から注目されています。

しかし、鄧小平氏の改革開放路線が進展、特に2000年代に入り、経済力を含めた中国本土の発展とその影響力拡大が顕在化すると、ASEANは、経済的メリットを含め、その中国本土を無視出来なくなっています。

但し、その温度差はあり、ラオス、カンボジアのように中国本土に事実上既に取り込まれていると見られる国もあれば、シンガポールやマレーシアのように環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)の協議にも参加しつつ、様子見をしながらも、中国本土との関係でのメリットを上げようとしている国もあります。

こうした一方で、「一帯一路」構想を前面に打ち出し、ASEANも含めて、より広い諸国に対して、**slow & steady** でその影響力を拡大しようとしている中国本土は、したたかであります。

こうした中、

☆その出自、受けてきた教育の中に中華民族の血と共産主義的思想も意識するドゥテルテ大統領が登場したフィリピン

☆スハルト政権の32年間で根を張った国軍の影響力を弱めつつ、アジア諸国の中では最も早く、1920年に合法的に共産党を設立したインドネシアに、共産党を復活させようと水面下で動いていると見られるジョコ大統領が登場したインドネシア

☆ワチラロンコン新国王を戴きながら、民主化復帰を目指す中、今や中国本土に近いと見られるタクシン元首相を軸とするタクシン派の影響力が強まるタイ

などはしたたかに中国本土との関係強化のチャンスを狙っています。

一方で、また、

☆中国本土と同じく社会主義・共産主義を標榜し、また北部には「小中華」的意識も実際にはあるベトナムでも、領土問題をはじめ、様々な課題を意識し、また、TPPにも参加しつつ、中

国本土との交流メリットをしたたかに探すベトナムの動きも無視出来ないと思います。

そして、総じて、

「一帯一路戦略を進める中国本土との関係強化と言う基本姿勢を示すASEAN」を意識して、日本はどう動くのかを考えていくべきかと思います。

即ち、国家としては、中国本土との外交関係も含めた視点から、日本企業としては、対中国本土ビジネス戦略と中国本土が進める一帯一路構想を意識しつつ、対ASEAN戦略を構築し直す時期に来ていると私は見えています。

時代は大きく変わりつつあると思います。

【台湾・中国・その他】

—今週の台湾・中国—

[台湾]

台湾中部の都市である台中市の林市長が今般、来日し、観光による日台交流促進を目指す「日台観光サミット in 四国」に出席した。

林市長は滞在中、愛媛県の中村知事と面会し、台中市と愛媛県の友好交流覚書を締結している。

こうした草の根の日台交流は、平和の礎を築く上で、今後、時間をかけて効果を生むものと思われ、期待したい。

[中国]

日本の読売新聞は、

「中国本土政府は、北朝鮮の弾道ミサイル発射に反対するとコメントした。」

と報じている。

そして、中国本土政府は、北朝鮮に対して、

「国連安全保障理事会決議に違反する行為をやめ、対話の再開に向かうように説得している。」

とも見られている。

簡単に同盟国・中国本土の説得に応じない北朝鮮の動きと関係国の対応などを含めて、中国本土の対北朝鮮外交姿勢の動向をフォローしたい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 北朝鮮情勢について
2. 中国本土の北朝鮮に対する見方について
3. 日米軍事演習と中国本土について
4. マカオ情勢について
5. アフガニスタン情勢について
6. フィリピン情勢について

—今週のニュース—

1. 北朝鮮情勢について

北朝鮮は、米国の原子力空母カールビンソンの艦隊が4月末から日本海に展開する中で、今月3度目となる弾道ミサイルの発射を強行した。

そして、北朝鮮は周辺海域を航行する船舶への警報を出していない。

北朝鮮の軍事挑発は続く。

これに対して、中国本土も懸念は示しているが、北朝鮮の米国に対する挑発姿勢については、その立場を明らかにしていない。

今後の動向をフォローしたい。

2. 中国本土の北朝鮮に対する見方について

北朝鮮の周辺諸国に対する挑発行為は続いている。

北朝鮮問題の解決、そして、朝鮮半島の安定なくしては、北東アジアの真の平和は訪れない。

しかし、こうした中、北朝鮮は強硬姿勢を繰り返す。

そうした背景として、中国本土の一部では、

「北朝鮮政府当局者らはイラクやリビアなど核開発を諦めた国は、最終的には全て米国に滅ぼされた。

従って、米国を攻撃できる核ミサイルがなければ、体制を維持できないと固く信じている。」

との見方を示しており、筆者も基本的に同様の見方を持っている。

そして、実際に、北朝鮮からは、こうした声が、リビアのカダフィ大佐の殺害・死亡の直後に出てきていたことを思い出す。

今後の動向をフォローしたい。

3. 日米軍事演習と中国本土について

米国の原子力空母であるロナルド・レーガンの艦隊と日本の海上自衛隊の艦艇が、近く共同訓練を実施する為、日本の防衛省が米海軍と調整を始めた。

ロナルド・レーガンは6月中にも日本海へ派遣される見通しで、日本海に入る前に共同訓練することで、軍事的挑発を続ける北朝鮮に日米の連携姿勢を示して牽制する目的で行おうとしている。

これは、当然に北朝鮮に対する圧力となろう。

しかし、こうした米軍の動きを中国本土はどう見るであろうか？こうした日本の動きを韓国はどう見るであろうか？そして、北朝鮮は本格的に日本を軍事的に敵視しないだろうか？

こうした動きの影響は多角的に予測、分析する必要がある。

4. マカオ情勢について

1999年にポルトガルから中国本土に帰属したマカオの経済は今年に入り、順調に推移している。

即ち、マカオと区別行政区政府・統計調査局は、本年第1四半期（2017年1～3月期）のマカオの域内総生産（GDP）が物価変動の影響を除く実質で10.3%増となり、昨年第4四半期の7%を上回ったと発表している。

これにより、プラス成長は3四半期連続であり、また、増加幅も拡大している。

マカオ政府は、サービス輸出及び投資の改善が持続していること、昨年第1四半期のベースが低かったことを増加の要因として挙げている。

今後の動向をフォローしたい。

5. アフガニスタン情勢について

アフガニスタンの首都・カブールで大きな爆発があった。

現地報道によると、自動車爆弾による自爆テロと見られている。

今回の爆発では、在アフガニスタン日本大使館の職員もけがをしており、また、現場はドイツ大使館の近くで起きたこともあり、多くのけが人が病院に運ばれたと報じられている。

アフガニスタンの安定は遠い。

6. フィリピン情勢について

フィリピンのロレンザーナ国防相は、過激派組織・I Sに忠誠を誓う武装組織に対する掃討作戦をフィリピン南部で展開していると述べたうえで、サウジアラビアやロシア南部チェチェン共和国出身のI S戦闘員8人の遺体が見つかったと発表している。

過激派勢力の影響力がアジアにまで拡大してきている可能性があり注視したい。

尚、そのフィリピンのマニラ首都圏にあるニノイ・アキノ国際空港近くの複合型リゾートホテル「リゾーツ・ワールド・マニラ」で銃撃や爆発を伴う事件が発生している。

銃を持った男らが押し入ったとの情報があり、テロとの見方が強い。

【韓国】

—今週の韓国—

韓国の国政企画諮問委員会の金委員長は、

「韓国における最も大きな既得権は財閥である。

社会における改革や大妥協を達成するには、まずは財閥が反省しなければならない。」と発言した。

韓国に於ける財閥の役割を勘案した際に、行き過ぎた財閥批判は韓国経済を傷つける危険性もある。

そうした中での発言であるだけに、今後の財閥に対する政策運営姿勢などがどのように変化していくのか注視しなくてはならない。

今後の動向をフォローしたい。

—今週のニュース項目（見出し）—

1. 経済政策について
2. 北朝鮮のミサイル発射と日米関係について
3. 中韓関係について
4. 韓国の対北朝鮮姿勢について
5. 北朝鮮のミサイル発射について
6. 日朝関係について
7. 米朝関係について
8. 三星SDI、ハンガリービジネスについて
9. 訪韓外国人観光客について
10. 現代自動車、業況について
11. 起亜自動車、業況について

—今週のニュース—

1. 経済政策について

文大統領は、既得権益層が得ている特惠を一定程度取り上げると共にこれを一般庶民に配分する意向を示しつつ、大統領選挙を戦い抜いた経緯がある。

従って、既得権益層に対する一定の措置を示さぬと庶民から文大統領に対する批判の声が強まる可能性もある。

こうした中、韓国政府は、企業に対して法人税減免などの恩恵を大幅削減したり、金融・賃貸収入が多い富裕層に対して各種の税金減免を廃止・削減したりすることを検討し始めた。

現行制度において、企業や個人が享受すると見られる各種の優遇税制措置は、今年度の場合、企業が1兆5,000億ウォン、個人が2兆4,000億ウォンなど、計3兆7,000億ウォンに達すると見られている。

今後の動向をフォローしたい。

2. 北朝鮮のミサイル発射と日米関係について

北朝鮮の弾道ミサイル発射を受け、北朝鮮の核問題に関する6者協議の首席代表を務める外務省の金杉アジア大洋州局長は、米国の首席代表を務める国務省のジョセフ・ユン北朝鮮政策特別代表と電話協議した。

こうした中で、筆者は北朝鮮が、上げた拳を如何に下すのかを注目している。

条件闘争をする駆け引きとしてミサイル発射を続けていると見られる中、どのような形で日米を中心とした制裁が遂行されるのかについても注視したい。

3. 中韓関係について

韓国1位の格安航空会社であるチェジュ航空は、「中国本土の航空当局から、山東省行きの定期路線に対する増便の許可が出た。」と発表している。

米国が主導するミサイルシステムであるTHAADの問題で中国本土の報復が始まった昨年未以来、韓国の航空会社が中国本土の定期路線の増便許可を受けたのは今回が初めてであり、韓国では今後、中国本土の報復が緩和されることに期待感が高まっている。

今後の動向をフォローしたい。

4. 韓国の対北朝鮮姿勢について

北朝鮮による弾道ミサイル発射を受け、韓国の文大統領は、国家安全保障会議（NSC）常任委員会の招集を指示し、対応を協議した。

そして、この会議を受けて、韓国政府・外交部は、「北朝鮮の如何なる挑発行為も決して容認せず、断固として対応していく。」とする声明を発表している。

今後の動向をフォローしたい。

5. 北朝鮮のミサイル発射について

北朝鮮国営の朝鮮中央通信は、「精密誘導システムを導入した弾道ミサイルを新たに開発し、その試験発射に成功した。」と報じている。

また、金正恩朝鮮労働党委員長がこの発射実験を視察したことも報じられている。
今後の動向をフォローしたい。

6. 日朝関係について

北朝鮮国営の朝鮮中央通信は、北朝鮮政府が、日本が北朝鮮への制裁圧力を強めていることに関して、

「日本にある米国の侵略的軍事対象（米軍基地を指すと見られる）だけが、今は我が軍の攻撃照準に入っているが、日本が敵対的に対応するなら標的は変わるしかない。」

との談話を出したと報じている。

在日米軍以外の日本国内にも攻撃する可能性を示唆して日本を牽制している。

今後の動向をフォローしたい。

7. 米朝関係について

米国政府・ミサイル防衛局は、大陸間弾道ミサイル（ICBM）の迎撃実験を初めて実施し、成功したと発表した。

北朝鮮が弾道ミサイル発射を繰り返し、米本土を攻撃可能なICBMの開発に向けて技術力を高める中、米軍のミサイル防衛能力の高さを誇示した形である。

尚、当該ミサイルは、地上配備型ミッドコース防衛（GMD）システムから迎撃ミサイルとして発射され、攻撃対象を大気圏外で迎撃したとされている。

8. 三星SDI、ハンガリービジネスについて

韓国は大宇グループに見られるように比較的早くからハンガリーでの生産拠点運営には積極的な国である。

こうした中、韓国トップの財閥グループである三星グループ系列の大手電機メーカーとなる三星SDIは、ハンガリーの首都・ブダペスト北方にあるゲドで電気自動車用バッテリー工場の完工式を行ったと発表している。

完工したのは33万平方メートルの工場で、年間で電気自動車5万台に搭載できるバッテリーを量産する計画となっている。

今後の動向をフォローしたい。

9. 訪韓外国人観光客について

米国の高度防衛ミサイル（THAAD）配備を巡り、冷え切っている中韓関係は最近、中国本土側の姿勢変化により、雪解けの兆しが見えてきているが、韓国免税店協会によると、韓国国内の免税店を5月訪れた外国人観光客数は99万8,000人となり、昨年3月の123万4,600人に比べて19%減少している。

THAAD報復措置により韓国を訪れる外国人観光客の半数を占める中国人観光客が急減した影響で、100万人を切ったと見られ、1年前の183万人に比べると約半分で、中東呼吸器症候群（MERS＝マース）感染問題で訪韓外国人観光客が急減した2015年7月以来の低い水準となっている。

これにより、免税店の売上も回復しておらず、韓国国内の免税店における外国人客の売上高は、5月は5億9,015万米ドルで、前月より11%減少している。

今後の回復の兆しをフォローしたい。

10. 現代自動車、業況について

韓国有数企業の一つである現代自動車は、本年5月の世界での販売台数が36万7,969台となり、前年同月対比14.2%減少したと発表している。

国内販売は0.4%減の6万607台となっている。

高級セダン「グレンジャー」が1万台以上売れ、売上が伸びたものの、多目的レジャー車（RV）の販売減で前年同月に比べて小幅に落ち込んでいる。

一方、海外販売は30万7,362台に留まり、16.5%の大幅減となった。

新興市場の低成長とこれによる需要減が響いている。

今後の動向をフォローしたい。

11. 起亜自動車、業況について

現代自動車グループ傘下であり、韓国有数企業の一つでもある起亜自動車は、本年5月の世界での販売台数が21万9,128台となり、前年同月対比9.8%減少したと発表している。

国内販売は4万3,522台で、個別消費税の引き下げや新車効果などの好材料があった前年同月に比べ8.6%減少している。

一方、海外販売は10.1%減の17万5,606台となっている。

同社は、

「市況は厳しいものの、先月下旬に発売したプレミアムセダン・スティンガーや本年7～9月期に発売する小型スポーツタイプ多目的車（SUV）で販売回復を目指す。」

としている。

今後の動向をフォローしたい。

【トピックス】

論理を組み立て、それを固めて、人に対して説明することは大切です。

自らの考え方、思いをしっかりと他人に説明する必要がある局面ではこうした論理の組み立てをし、それをプレゼンテーションしていくことの重要性をひしひしと感じます。

こうした中、昨年のこととなりますが、私もお縁を持つ、地域発展計画に関連し、いくつか都市計画を手掛けてきた、ランド・デザイン作りを生業とする専門家のプレゼンテーションを受ける機会がありました。

彼の論理展開は極めて見事であり、とても良い参考となりました。

ここでは、当該地域計画の進展をしていく関係から、その内容を具体的にご説明できないので、臨場感ある解説ができなくて、残念ではありますが、それでも、その骨格となる論理展開の源をご説明していくと以下ようになります。

1. 自らがプレゼンテーションをする聞き手が如何なる思いで話を聞こうとしているのか、プレゼンテーションをする相手の意向や思いを徹底的に調べる。

この彼は、これを徹底的にしてくれました。

従って、話が始まった最初から聞き手との間で「協調、意識の共有」という一体感が生まれました。

2. しかしながら、聞き手に決して迎合することなく、聞き手の意識や関心、或いは聞き手のプライドを尊重しつつも、自らの専門性に合わせた、彼独自の視点からのコンセプトをいの一に提示、プレゼンテーションのポイント、方向性とその価値をどこに置いて説明しているのかを聞き手にきちんと伝えると言う努力をする。

彼は淡々と、しかし力強く、自らの専門性に立った提案が聞き手にも価値が高いということを説明してきました。

3. 上述したように前提、セレモニーを経て、聞き手の心と頭を柔らかくした上で、当該プロジェクトの具体的な与件を確認し、聞き手の「現実と環境、それに対する思い」を再確認し、自らの提案が聞き手によって提示されたスペックに基づいて準備されたものであることを確認する。

彼は、こうした具体的な与件を確認しつつ、当該プロジェクトに対する根幹のコンセプトを、具体性を感じさせるキャッチコピーで見事に表現しました。

4. 次に、その基本コンセプトに基づき、計画骨子の概要を提示する。

彼は、この段階で具体的な計画の骨子となるものを説明して、当該プロジェクトそのものの全体のイメージを具体的に聞き手に浸透させていきました。

5. その上で計画概要を個別に提示していく。

しかし、ここで彼はもう一ステップ、個別計画のコンテンツを大きく三つに分類し、それぞれの分類が計画全体の中にあってどうした意味を持ち、どのような効果をもたらすのかを先ず事前に説明していました。

6. そして、最後に基本コンセプトによってもたらされた個別具体的な各計画を一つ一つ丁寧に先例も含め、説明する。

と言った手順で見事に聞き手の心を驚掴みにしていったのであります。

プレゼンテーションは自らの思いや考え方を示し、それを聞き手に共鳴してもらおう為に行うことが基本であると私は考えていますが、とても参考になるプレゼンテーションでありました。

[今週の“街角のお話”シリーズ]

今週は、ちょっと悲しい大人の童話です。

昔々のある星でのお話です。

その星は、かつては年老いた獅子王国が支配した世界でした。

昔、獅子王国は、気の強い猛虎王国を知恵で押さえ込み、見事に世界に君臨しました。

そして、今は若い血気盛んなピューマ王国と手を合わせて、この世界を支配しています。

しかし、血気盛んなピューマ王国は世界を相手に戦い続け、その勢いは陰り気味です。

また、そのピューマ王国と競ってきた白熊王国は、ピューマ王国との戦いの傷が癒えず、プライドは残っていても、ピューマ王国や獅子王国と戦うだけの力はありません。

その獅子王国とピューマ王国に完膚なきまでに叩き潰されたヒグマ王国は、今、着々とその傷を癒しつつあります。

ヒグマ王国に蹂躪されたお洒落なヒョウ王国は獅子王国やピューマ王国の助けもあって今はその勢いを戻しています。

そして、かつて自らを苦しめたヒグマ王国と手を取り、新しい世界を作ろうと頑張っているのですが、如何せん、力不足のようです。

こうした中、昔、獅子王国に痛い目に会った猛虎王国はじわじわと力を取り戻し、白熊王国とも、ピューマ王国とも、更には、かつて自らを貶め、衰退させた獅子王国とも手を携えて、本格的な新たな世界構築を目指して、着々とその力を誇示し始めています。

また、その猛虎王国は今やヒグマ王国とも親しくなり、白熊王国やピューマ王国をも上手に牽制するようになりました。

意外にも猛虎王国はまた、お洒落なヒョウ王国とも比較的仲良く生き残ろうとの動きを示しています。

そして、世界には、温厚ではありますが実は強い象王国もありますが、今は平和を望み、様子を見ているようです。

そんな時、狐の双子の兄弟がそれぞれ治める二つの小さな王国のうち、一つの王国が暴走を始めました。

賢い、でもずるいこの狐王国は、これまで、自らはあまり働かず、白熊王国や猛虎王国を頼ってばかりでしたが、その白熊王国はもうこの狐王国を本格的に助ける余力なく、猛虎王国は、これを助けてはきましたが、最近では、

「もう甘えるな！」

と怒っている様子、そしてこの狐王国は、ピューマ王国は大嫌いときており、とうとう今や、どの国も助けてくれなくなりました。

こうして、どの国とも仲良くせず、頼れるのは自らのみとばかりに、

「蜂のひと刺し」

で相手を一撃で仕留める牙を磨き始めたのであります。

これに対して、もう一つの狐王国は、かつては若く血気盛んなピューマ王国に寄り添っていましたが、その力が落ちる中、猛虎王国とも協力しながら、そして、ピューマ王国も頼りながら、暴走する兄弟狐王国を諫めようしますが、効果なく、

「世界のはぐれ者」

として、暴走する狐王国の方は世界から睨まれているのであります。

また、ずる賢いこの狐王国は、なんと世界の中の荒くれ者で皆から嫌われているものの、国を持たず、世界各地に散らばる、

「ハイエナ軍団」

とも連携するようになりました。

こうして、世界のはぐれ者と世界の嫌われ者が暗躍する世界を見て、とうとう、獅子王国とピューマ王国、そして猛虎王国も手を携えて、こうした狐王国とハイエナ軍団討伐に動き始めたのであります。

そして、力の差は圧倒的、勝負あったと思いきや、狐王国や一部のハイエナ軍団と実は繋がる白

熊王国が水面下でごそごと動き、なかなか最終決着がつきません。

更には、同じクマ族に属するヒグマ王国も水面下では、白熊王国に近寄り始めました。

このような展開になるや、着々と、

「ポスト獅子王国・ピューマ王国」

を目指しつつゆっくりと力をつけてきた猛虎王国も、ピューマ王国との連携を解き、ずる賢い狐王国は、ここぞとばかりに、猛虎王国に寄り添う形で、その磨いた牙をピューマ王国にむき出しにしたのであります。

こうして、ピューマ王国の力はその後、本格的に低下、その結果として、猛虎王国が世界を支配する時代になったのであります。

しかし、その猛虎王国もハイエナ軍団やそのハイエナ軍団と今も繋がるずる賢い狐王国には手を焼いているのです。

ところで、こうした世界を天から眺める鳳凰は、

「皆の者、何故、お前たちは弱肉強食の世界から飛び立てないのか？」

と問いますが、皆は、口を揃えてこう言います。

「私たちは生き続け、生き残りたいのです。

それが私たちの欲であり、性であります。

鳳凰様、申し訳ありません、私たちは生きている限り、生き残ろうとして生き、だから、究極的な状況となれば、弱肉強食とならざるを得ません。

肉体的に力のある者はその力を背景に、体力のない者は知恵をより一層使い、皆、生き残ろうとするのです。

こうして、私たちの世界は誰が支配しても栄枯盛衰、また、その支配が変わっていくのであります。」

と――

なんと悲しいお話でありましょうか。

[英語で一言]

ここでは、英語を母国語としない私が英語を母国語としない多くの人々にも伝わるように、短文、平易な英単語を使って、気になる言葉、出来事を、短歌のように数行で示していくことを毎週トライするものであります。

またまた拙いコーナーの開始ですが、お付き合いください。

Take a risk=リスクを取る

リスクの無いビジネスはありません。

リスクの無い人生もありません。

従って、少なくとも私たちビジネスマンはリスクを取らなくてははいけません。

「リスクを避けるビジネスマンも、単純に言って、年に2回は大きなミスを犯す。」

と有名なドラッカー先生は言います。

そして、ドラッカー先生は、また、

「リスクを取る社員もまた年2回ほど大きなミスを犯す。」
とも仰います。
積極的にしかし慎重にリスクを取りなさいと言うことです。
上手にリスクを取ることができる人、
私はそうした人を勇気ある人と呼びます。

Take a risk=リスクを取る

There is no business but has risks.

Also there is no human life without risks.

Therefore I believe that we, at least the people who are in the business field, must take a risk in our business as well as in our life.

Famous Dr. Peter Drucker said;

“People who don't take risks generally make about two big mistakes a year.”

And he also said;

“People who do take risks generally make about two big mistakes a year.”

This word means we must take a risk with aggressive and cautious mind.

I want to define that those who can take a risk smartly is a truly brave person.

〔主要経済指標〕

1. 対米ドル為替相場

韓国：1米ドル／1, 121.60（前週対比－3.77）

台湾：1米ドル／30.11ニュー台湾ドル（前週対比－0.01）

日本：1米ドル／111.52円（前週対比－0.21）

中国本土：1米ドル／6.8151人民元（前週対比＋0.0374）

2. 株式動向

韓国（ソウル総合指数）：2,371.72（前週対比＋16.42）

台湾（台北加権指数）：10,152.53（前週対比＋50.58）

日本（日経平均指数）：20,177.28（前週対比＋490.44）

中国本土（上海B）：3,105.540（前週対比－4.519）

以上

草の根の辻説法師を目指す

真田幸光